

元伊勢宮 皇大神社

神代のままに

神社までの交通

■鉄 道 福知山駅經由 (JR山陰線・福知山線) → 大江山口内宮下車 (北近畿タンゴ鉄道宮福線)
 ■自動車 舞鶴若狭自動車道 福知山インター下車 9号線 → 175号線 約40分
 京都縦貫道 舞鶴大江インター下車 175号線 約20分



丹後天橋立大江山国定公園

元伊勢内宮

皇大神社 社務所

TEL(0773)56-1011 FAX(0773)56-1111

〒620-0323 京都府福知山市大江町内宮



御祭神

御本殿 天照皇大神 あまてらすめのおみかみ

協宮 左殿・天手力雄命 あめのたぢからのおみこと
右殿・栲機千々姫命 たくはたちぢめのみこと

末社 熊野神社外八十社

御由緒

当社は、皇祖（皇室の御先祖）天照皇大神をお祀りする神社で、正式社名は皇大神社であるが一般にその上に元伊勢内宮を冠してお呼びしている。伝承によれば、第十代崇神天皇三十九年に、「別は大宮地を求めて鎮め祭れ」との皇大神の御教えに従い、永遠にお祀りする聖地を求め、それまで奉斎されていた倭の笠縫邑（現奈良県桜井市三輪）を出御されたという。それはいまを去る二千年十年前のはるか昔のことであった。そして、まず最初に、はるばると但波（丹波）へ御遷幸、そのご由緒により当社が創建されたと伝えられている。皇大神は、四年ののち、御神蹟をおとめなされて再び倭へおかえりになり、諸所を経て、垂仁天皇二十六年（西暦紀元前四年）に、伊勢の五十鈴川上の聖地（いまの伊勢の神宮）に常永遠にお鎮まりになった。しかし、天照皇大神の御神徳を仰ぎ慕う遠近の崇敬者は、引き続いて当社を伊勢神宮内宮の元宮として、「元伊勢内宮」あるいは「元伊勢皇大神宮」「大神宮さん」などと呼び親しみ、いまに至るも庶民の篤い信仰が続いている。

元伊勢まいりの今昔

（往時）二千年前には、この地は大江山を中心とする丹後山地の大原生林の一角で、人跡未踏の秘境であったと思われる。庶民の参拝がはじまったのは鎌倉・室町・戦国の頃からと推定されるが、徳川時代には参勤交代の通路になったため、宮津藩主の尊崇を受け、急に広く崇敬の輪をひろげた。明治期まで、年間の参拝者八万人と記されており、麓には宿屋が十軒もあり、茶屋、土産物店が軒を並べていたという。当時は由良川の舟が利用され、船着場から約四キロ歩くだけだったので老若男女を問わず大勢の人が参拝したようだ。その舟便が途絶えた関係もあって、大正から昭和三十年代ころまでは参拝客も激減し、元伊勢も衰退の一途をたどった。

（現況）元伊勢まいりは、昭和四十年代後半ごろから急に盛んになり、昭和五十年代ころからは、ほとんど往時をしのぐ状況になってきた。最大の原因は自動車の普及と道路の整備である。又、福知山・宮津間を結ぶ北近畿タンゴ鉄道宮福線が開通したので参拝者はさらに増加の傾向にある。

現在の元伊勢参拝者は、地元近郷中心から急に遠隔にひろがってゆき、大阪・神戸・姫路・和歌山・岐阜・愛知・石川方面からの参拝者が目立ってきた。単純な観光客よりも、熱心な崇敬者の参拝が圧倒的に多く、宗教団体や教祖的信仰者のお参りが非常に多いのも特色のひとつである。

榎の御神木

昔元伊勢内宮には、神霊の憑代として崇められた大榎があったという。これにかわり、昭和六十二年三月十五日榎祭りを行って四本の榎の御神木が復活した。御本殿左右の日影榎、水影榎はお伊勢さんよりヘリコプターでお遷りになった。広前には、大直日榎（大本教献木）、変若水榎（世界救世教献木）が植えられた。

御本殿

茅葺の神明造りである。
千木は内ソギで堅魚木かちおぎは十本。

左右に棟持柱むなもちがある。

脇宮二社

左殿（向かって右）

天手力雄神社

右殿 栲機千々姫神社

黒木の鳥居

正面鳥居は、皮のついた杉でつくるたいへん古式なもので、全国的にも珍らしく、これを黒木の鳥居という。

龍灯の杉

栲機社の後に聳え立つ樹齢二千年と推定される御神木。昭和三十七年秋の火災と平成三年秋の台風の被害により枯死寸前であったが、平成六年樹勢回復施術をむつとともに、長寿の遺伝子を持つ小枝を採取、接ぎ木・挿し木で若木を誕生させた。いまこの若木は、親木の傍らに根つき、そののちを継承して御神威とともに未来に向け悠遠の時を刻むことであろう。

元旦祭（一月一日）（初詣） はつめうで

毎年正月中に北近畿一円から迎える大勢（七・八万人）の初詣客は、この一年のさまざまな願いをこめて神前に深い祈りを捧げる。この情景は、「日本がここにあつまる 初詣」と詠んだ俳人山口誓子の秀句を思い出させる。



神楽殿

小宮

八十の小宮が、御本殿を中心に、前後左右を囲む。皇大神ゆかりの摂社の他、全国一宮等有験の社を集め、八方詣（八方除参り、八方ひらき参りともいう）の信仰がある。



御若叡の森の御庭



さざれ石・君が代碑

昭和天皇御在位六十年を記念してもと深い谷だった所を埋めたてこの御庭ができた。君が代の歌の中にある「さざれ石」という珍しい巖が奉飾されている。

御製碑

今上天皇せになる謹刻した平成八年太古の森お庭に奉



の自然環境保護におよ御心を詠まれた御製をも。篤志家により、天皇御誕生日の佳節に、が保全されているこの飾された。



表参道と麻呂子杉

表参道は三百メートル。二百二十段に及ぶ自然石の石段が続いている。左右は深い神秘的な森と天を摩する大木。麻呂子杉は、聖徳太子の御弟麻呂子親王の御手植杉で、英呉、輕足、土熊という三人の賊を討つため祈願したみしるしだと伝えている。千年以上の古木で参道に聳え立つている。もとは三本杉であったが、永い年月の間に二本は落雷などで相次いで枯死し、今は一本を残すのみ。



天の岩戸

日室岳の下を流れる宮川溪谷に、秘境天の岩戸がある。天岩戸神社が祭られ御座石、神楽岩、大神の産タライ、鮎返し岩などがある。

ヘソ塚は、昔ヘソの緒をおさめ、長寿と健康を祈った。塚の上には椎の太木が聳えている。その下には和泉式部の歌塚がある。式部の夫は丹後守。娘は小式部といい、「大江山いく野の道の遠ければ、まだふみも見えず天の橋立」というあの有名な歌を詠んだ。



ひむろだけ

日室岳と

遥拝所

ピラミッドに似た日室岳は、原生林におおわれた神霊降臨の神山で、禁足（登ってはいけない）の聖地である。

遥拝所は「一願さん」とよばれ、一願成就の信仰が強い。

写真は夏至の日、太陽が頂上に沈むところ。まさに神霊降臨の神秘的瞬間である。

ヘソ塚と和泉式部の歌塚



主な祭事

カネの鳴る石
厄除けを祈りながら小石で打つとカーンカーンと金鐘音がする。

御門神社
みかど
奇岩窓神・豊岩窓神を祭る。この神は、四方四隅、上下、八方十方からくる悪邪の厄を防ぎ祓い却け、しかも出入する者の咎過ちを直してしまわれる厄神さんの本所である。



◆節分祭二月節分の日（厄除け）
やくよ

三鬼打ちと盃割り・
かわらけ
布八つ裂き神事

人に災いをもたらす三鬼（病氣・陰鬼・貧鬼）を、豆を撒いて神前に追い込み、お祓いをして元氣・陽氣・富貴のお多福に変身させる厄除け神事。



このあと場所を御門神社前に移して、盃割り・布八つ裂き神事が行われる。いずれの神事にも大勢の善男善女が参加する。



◆ 例祭 四月二十六日 (御神楽) おかぐら

神代七代の神々を奉頌して地元子女により、元伊勢神楽が古式床しく奉納される。
百年以上も続く伝統芸能神事である。



◆ 八朔祭 九月第一日曜 (練り込み) ね

八朔祭とは、稲をはじめとする五穀の豊穡を祈願する祭りで、元伊勢の八朔は北近畿の秋祭りのはしりである。



ご参拝案内MAP



- ①御本殿 ②脇宮 ③黒木の鳥居 ④龍灯の杉 ⑤豊受大神
水影の榎 ⑥天照大神日影の榎 ⑦変若水の榎(おちみず)
⑧大直日の榎(おほなほび) ⑨君が代碑・さざれ石 ⑩ヘソ
塚・歌塚 ⑪神体山日室ヶ岳 ⑫天の岩戸 ⑬日室ヶ岳遙
拝所(一願成就) ⑭授与所 ⑮神楽殿 ⑯斎館 ⑰御門神
社 ⑱カネの鳴る石 ⑲麻呂子の杉 ⑳神明鳥居

八朔祭斎行後、地元から奴行列
が練り込んで、威勢のよい若者
が鳥毛廻しを競い、広前では踊
手三百人が参加して元伊勢音頭
をはじめさまざまな民踊を奉納
し、東側広場では弓道奉納射会
が催されるなど、神域は終日神
賑行事でにぎわう。

そのほか、立春祭、夏越・年越の大祓式など

